

◆大野地域メイン集会所の現況

別紙 1

施設名	写真	建築年	経過年数 (令和4年時点)	延べ面積 (㎡)	構造	耐震基準	耐震診断結果	土砂・浸水区域
柿ノ浦		平成3年 (1991年)	31年	376.55	鉄骨造1階	新耐震基準	新耐震基準のため未実施	—
2区		昭和58年 (1983年)	39年	456.99	RC造1階	新耐震基準	新耐震基準のため未実施	—
3区		昭和51年 (1976年)	46年	315.4	鉄骨2階	旧耐震基準	全階においてIs値とq値ともに基準を下回っている。	—
4区		昭和54年 (1979年)	43年	569.44	鉄骨3階	旧耐震基準	全階においてIs値とq値ともに基準を下回っている。	河川浸水区域 (1.0m未満)
5区		平成9年 (1997年)	25年	433.61	RC1階	新耐震基準	新耐震基準のため未実施	河川浸水区域 (1.0m未満)
6区		平成17年 (2005年)	17年	420.38	鉄骨1階	新耐震基準	新耐震基準のため未実施	河川・津波 浸水区域 (1.0m以上)
7区		昭和56年 (1981年)	41年	417.36	RC2階	旧耐震基準	1階のIs値のみ基準を下回っているが、その他は基準を上回っている。	河川浸水区域 (1.0m以上)
8区		昭和55年 (1980年)	42年	427.34	鉄骨2階	旧耐震基準	1階と2階のq値においては、基準を上回っているが、その他は基準を下回っている	—
9区		平成5年 (1993年)	29年	668.21	RC1階	新耐震基準	新耐震基準のため未実施	—
10区		平成20年 (2008年)	14年	299.66	鉄骨1階	新耐震基準	新耐震基準のため未実施	土砂災害 警戒区域 (土石流)

※1 Is値：「構造耐震指標」と呼ばれ、建物の強さ、地震に対するねばり強さ、形状、経年による劣化の積による耐震性能を表すもので、この数値が多きいほど耐震性能が高い

※2 q値：「保有水平耐力に係る指標」と呼ばれ、建物が地震による水平方向の力に対して対応する強さを表す。

※3・※4 Is値>0.6 かつ q値≧1.0 であれば、地震の震動および衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低いと判定される。